

(九) 片瀬・海防の松

町文化財 昭和五十四年七月指定

平成二年

解除

片瀬や稲取の向井の海岸にある松は、「海防の松」と呼ばれています。「海防の松」とは、江戸時代に外国船が日本に近づくことを心配した幕府が、寛政五年（一七九三年）に海面した場所に松を植えることを命じたものです。海岸に松を植えることにより、外国船から村の様子などを見えなくしたのです。

江戸時代の日本は、オランダなど限られた国の船しか日本に来ることができないと決まっていた。しかし、江戸時代の中頃からロシアなどの外国船が日本に近づいてくるようになりまし。

松を植える命令を出したのは、老中（江戸幕府で将軍を助ける役職）だった松平定信です。松平定信は、命令を出した年に約四〇〇人のお供を連れて伊豆を見て回っています。松平定信やこのお供は、三月二十八日に片瀬に宿泊していますが、人数が多いため、稲取

や白田なども分かれて泊まったと伝えられています。

また、片瀬の海防の松は、昔からの言い伝えから「はりつけの松」とも呼ばれています。残念ながら松くい虫の被害を受けたため、平成二年（一九九〇年）に町の文化財指定から外されました。

